

第1部 2011年度決算概要 及び 2012年度業績予想

執行役員副社長 別川 俊介

2011年度 業績サマリー

単位: 億円

■ ポイント

(1) 受注高

- ・機械コンポ、建機、環境で前期比増加
- ・海外を中心に増加

(2) 売上高

- ・船舶を除くセグメントで前期比増加
- ・特に量産機械系は海外向けで大幅に増加。

(3) 営業利益

- ・精密機械、建機は売上増加により前期比増益
- ・機械コンポ、産業機械は為替影響により前期比減少
- ・環境プラントの落ち込みの影響大

(4) 純利益

- ・特別損失の影響により前期比減少

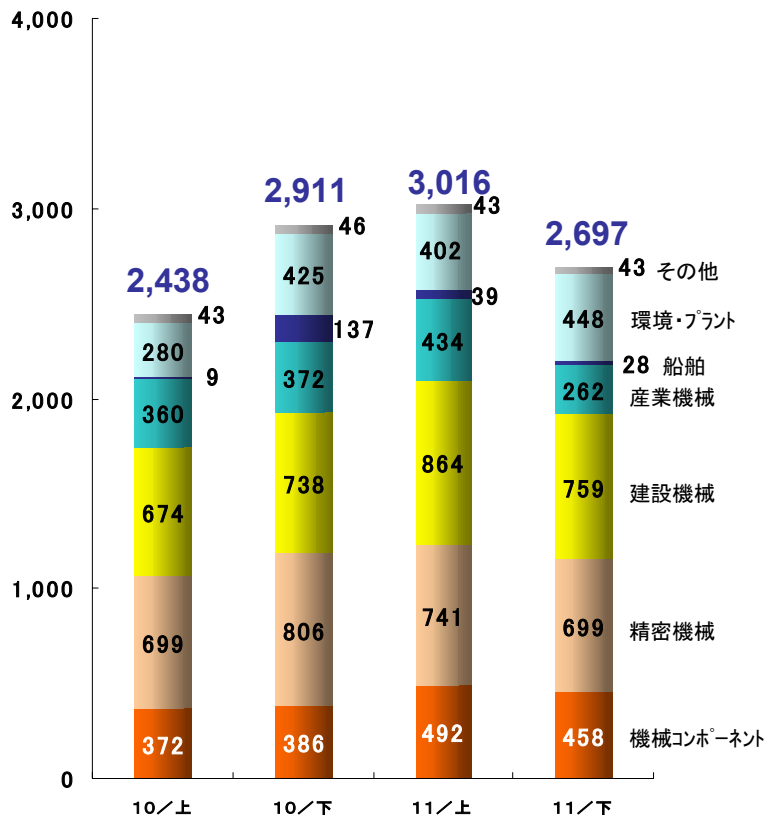
	2011	2010	増減
受注高	5,713	5,349	364
売上高	6,241	5,480	761
営業利益	471	458	13
営業利益率	7.6%	8.4%	△0.8%
経常利益	446	443	4
経常利益率	7.1%	8.1%	△0.9%
特別損益	△64	8	△73
税金等調整前 当期純利益	382	451	△69
当期純利益	195	279	△84
当期純利益率	3.1%	5.1%	△2.0%

受注・売上 半期推移

単位: 億円

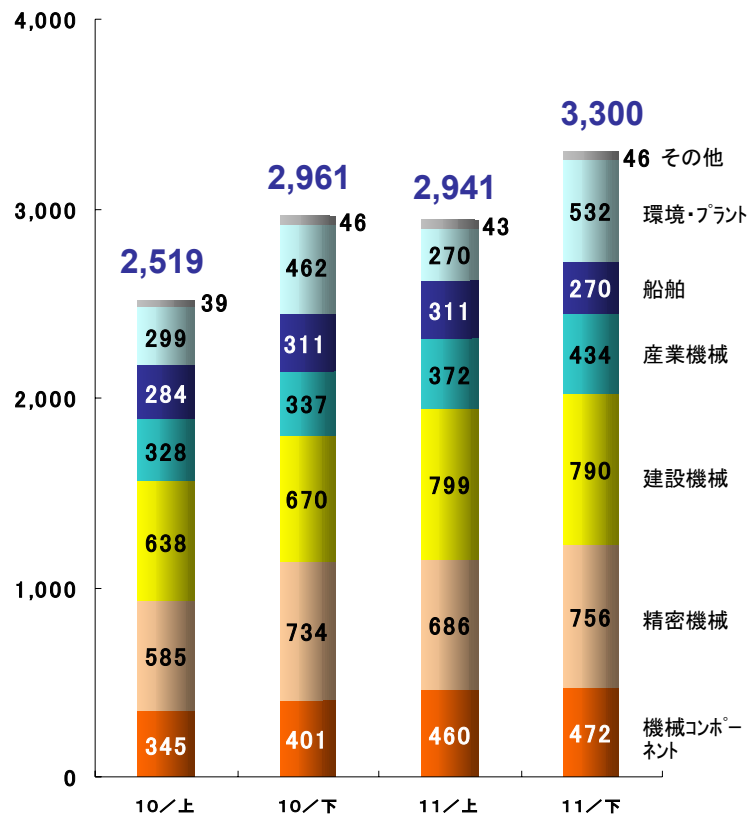
受注高

- 量産機械系は11/下に入り円高で減速。新造船受注は11年度0隻。



売上高

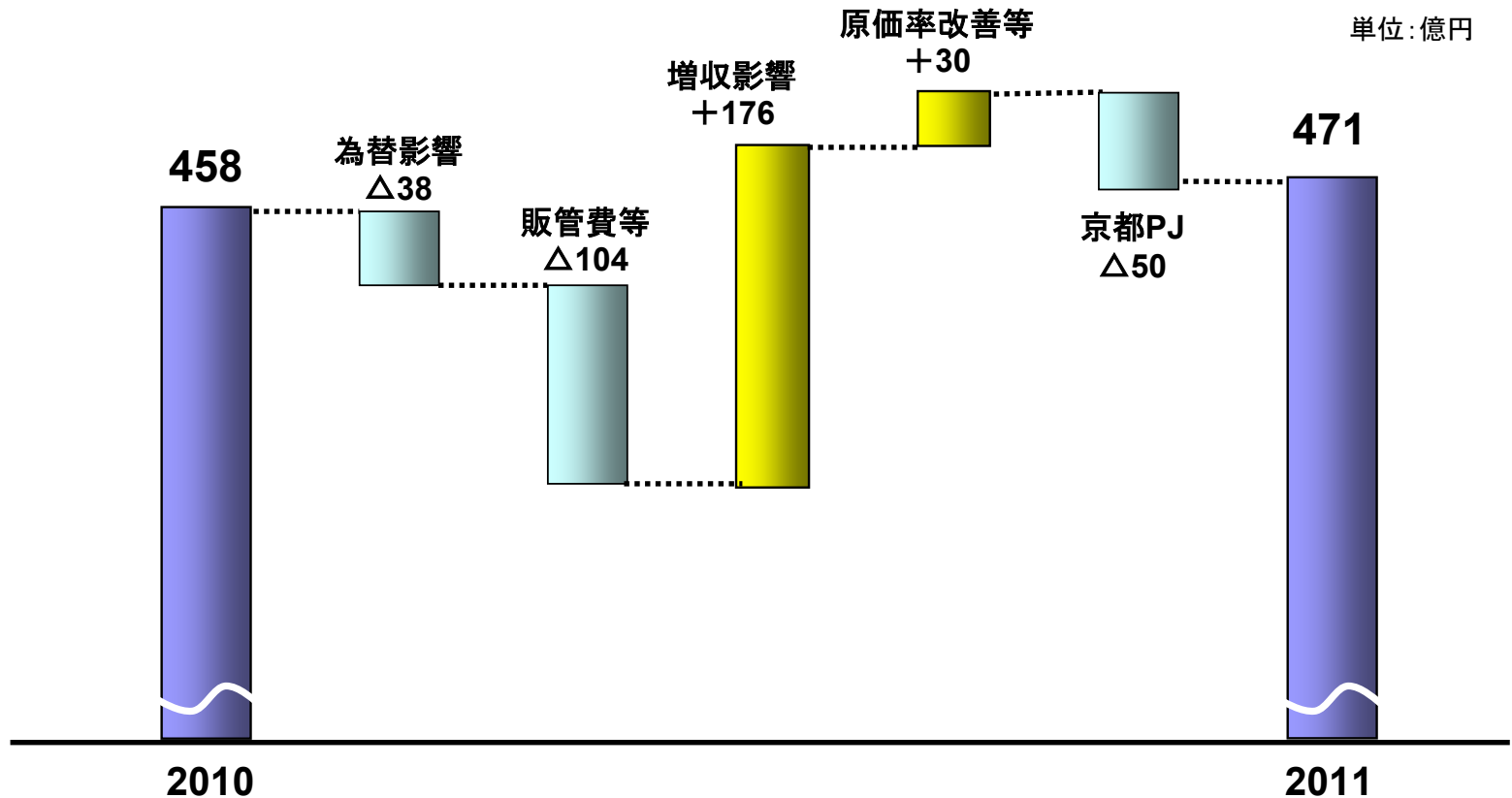
- 全セグメント、堅調に推移。



セグメント別営業利益

■ 対前年度比較	単位:億円			
	2011	2010	増減	
<機械コンポーネント> 為替影響および大型機種 of 採算悪化により利益減少	機械コンポーネント	42	49	△6
<精密機械> 売上増加等により大幅に利益改善	精密機械	125	83	42
<建設機械> 油圧ショベル、米国モバイルクレーンとも売上増加により利益増加	建設機械	83	53	30
<産業機械> 売上は増加するも為替影響により海外分の利益減少	産業機械	95	103	△8
<船舶> 新造船の引き渡しが前年比1隻少ない7隻だが、コストダウン等により利益改善	船舶	109	99	10
<環境・プラント> 京都市向け灰溶融施設の改造工事費用引当により大幅悪化	環境・プラント	0	56	△56
	その他	17	16	1
	計	471	458	13

營業利益增減分析(2010年度-2011年度)



連結貸借対照表

■ 受注・売上増に伴い、売上債権、たな卸資産が増加

単位:億円

	2012/3末	2011/3末	増減		2012/3末	2011/3末	増減
流動資産	4,290	3,653	637	負債	4,097	3,574	522
現預金	734	525	209	買掛債務	1,538	1,320	219
売上債権	1,813	1,553	260	前受金	278	333	△55
たな卸資産	1,439	1,310	129	有利子負債	965	678	287
その他	304	266	39	その他	1,316	1,243	73
固定資産	2,628	2,615	13	純資産	2,821	2,694	128
有形固定資産	2,198	2,142	57	株主資本	2,556	2,426	130
無形固定資産	64	69	△6	その他の包括利益累計額	232	247	△14
投資その他の資産	366	404	△38	少数株主持分	33	21	12
合計	6,918	6,268	650	合計	6,918	6,268	650
				ネット有利子負債比率	3.3%	2.4%	0.9%
				自己資本比率	40.3%	42.6%	△2.3%

連結キャッシュフロー計算書

単位:億円			
区 分	2011	2010	増減
営業活動	233	365	△132
税金等調整前当期純利益	382	451	△69
減価償却費	178	179	△1
運転資本	△236	△101	△135
その他(税金等)	△91	△164	74
投資活動	△227	△235	8
フリーキャッシュ・フロー	6	130	△124
財務活動	199	△220	419
現金・現金同等物増減	199	△100	299
現金・現金同等物期末残高	724	517	207

2012年度セグメント別業績予想

- ポイント (1) 受注は環境を除き増加。建機は引き続き海外中心に伸長。
 (2) 売上は産機、船舶で減少。
 (3) 営業利益は機械コンポ、建機、環境で増加するも、産機、船舶で減少し、全体として減益。

		2011下期 実績	2012上期 予想	2012下期 予想	2012年度 予想	2011年度 実績
機械コンポーネント	受注高	458	460	510	970	951
	売上高	472	470	500	970	932
	営業利益	20	25	30	55	42
精密機械	受注高	699	700	790	1,490	1,439
	売上高	756	720	760	1,480	1,441
	営業利益	65	50	75	125	125
建設機械	受注高	759	860	890	1,750	1,624
	売上高	790	880	900	1,780	1,589
	営業利益	44	55	70	125	83
産業機械	受注高	262	340	360	700	696
	売上高	434	370	350	720	807
	営業利益	46	30	25	55	95
船舶	受注高	28	100	80	180	67
	売上高	270	170	290	460	581
	営業利益	53	△10	20	10	109
環境・プラント	受注高	448	400	420	820	850
	売上高	532	350	460	810	801
	営業利益	20	10	55	65	0
その他	受注高	43	40	50	90	86
	売上高	46	40	40	80	89
	営業利益	8	10	5	15	17
合計	受注高	2,697	2,900	3,100	6,000	5,713
	売上高	3,300	3,000	3,300	6,300	6,241
	営業利益	256	170	280	450	471

2012年度業績予想

■ ポイント

- 2011年度は2010年度8円から10円に増配。
- 2012年度は年間10円を維持。

単位:億円

	2012上期予想	2012下期予想	2012年度予想	2011年度実績
受注高	2,900	3,100	6,000	5,713
売上高	3,000	3,300	6,300	6,241
営業利益	170	280	450	471
営業利益率	5.7%	8.5%	7.1%	7.6%
経常利益	150	260	410	446
経常利益率	5.0%	7.9%	6.5%	7.1%
特別損益	△5	△15	△20	△64
当期純利益	80	155	235	195
当期利益率	2.7%	4.7%	3.7%	3.1%
配当	4円	6円	10円	10円
配当性向			26.1%	31.5%
ROIC (税引後)			6.1%	7.4%
織込レート(ドル)			80円	85円(実績)

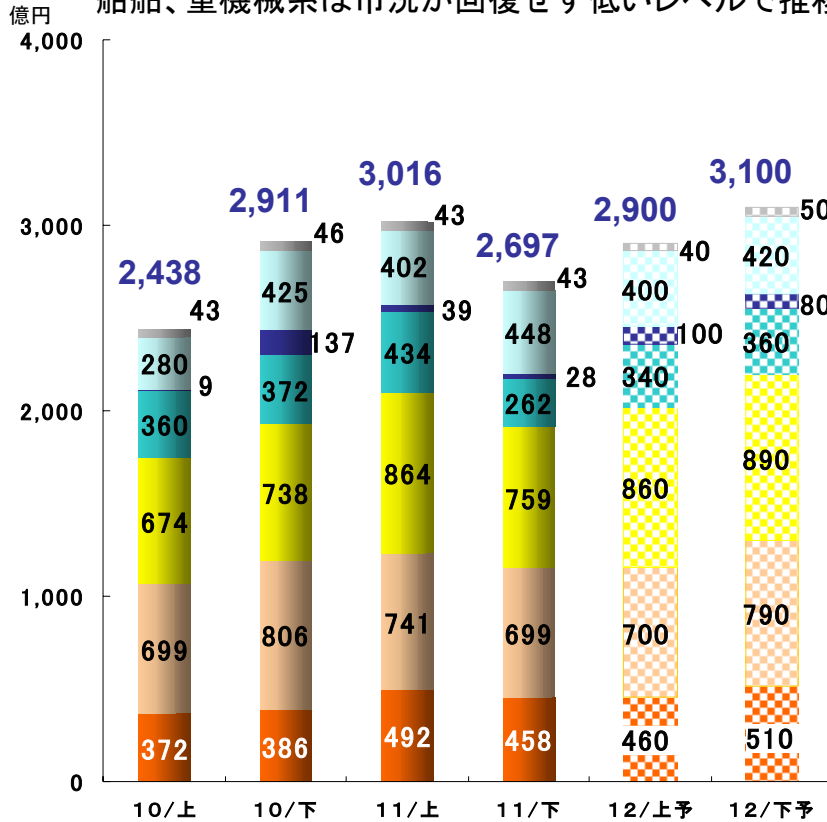
第2部 経営戦略

社長 中村 吉伸

受注高・売上高推移

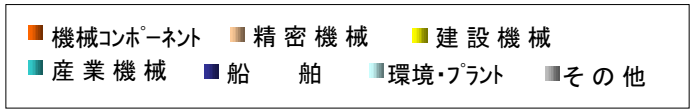
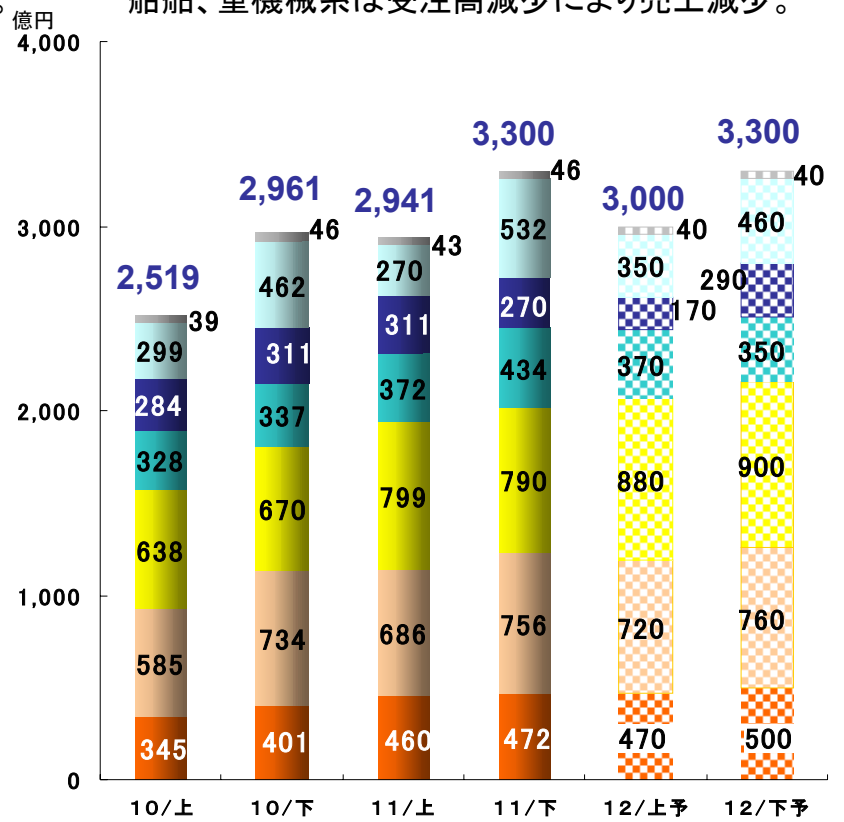
受注高

機械コンポーネント、精密、建機は徐々に増加。
船舶、重機械系は市況が回復せず低いレベルで推移。



売上高

機械コンポーネント、精密、建機は増加傾向。
船舶、重機械系は受注高減少により売上減少。



2012年度セグメント別受注環境

2-2

- 量産機械系は回復基調。
- 重機械系は受注環境は依然厳しい。

単位: 億円

セグメント	受注環境	2012年度受注金額		
		上期予想	下期予想	通期予想
機械コンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> ・国内は、海外経済の減速や円高による客先企業の収益下振れ、海外シフト加速に伴い設備投資が伸び悩み。 ・欧州・中国は不透明感があるが、北南米、東南アジアは底堅い。資源、エネルギー関連向けの機種期待。 	460	510	970
精密機械	<ul style="list-style-type: none"> ・フラットパネル関連分野は市況悪化の一方、電子、自動車の一部に市況改善の兆しあり。地域的には欧州市況の悪化懸念、中国市況軟化のリスクあり。 ・射出成形機の国内需要は前年レベルで推移する一方海外は堅調。 ・医療関連はアジアを中心に堅調。陽子線がん治療装置の案件はあるも実現時期が不透明。 ・半導体関連は回復が遅れており厳しい。 	700	790	1,490
建設機械	<ul style="list-style-type: none"> ・ショベルについては中国市場は低いレベルで推移。東南アジアについてはインドネシア等での拡大を想定。北米は引き続き回復基調。 ・モバイルクレーンは引き続き北米市場が回復基調。 	860	890	1,750
産業機械	<ul style="list-style-type: none"> タービンはバイオマス発電需要期待。ポンプは石油精製プラント向けで不透明感あり。クレーンは国内造船、鉄鋼向けが軟調。プレスはアジアへのトランスプラント対応で一部活況。 	340	360	700
船舶	<ul style="list-style-type: none"> 新造船は引き続き厳しい市況が継続。 	100	80	180
環境・プラント	<ul style="list-style-type: none"> ボイラでは東南アジア低品位の石炭活用、国内では林野系バイオマス活用に動きがある。水処理では震災復興需要分が減少。 	400	420	820
その他		40	50	90
合計		2,900	3,100	6,000

機械コンポーネント

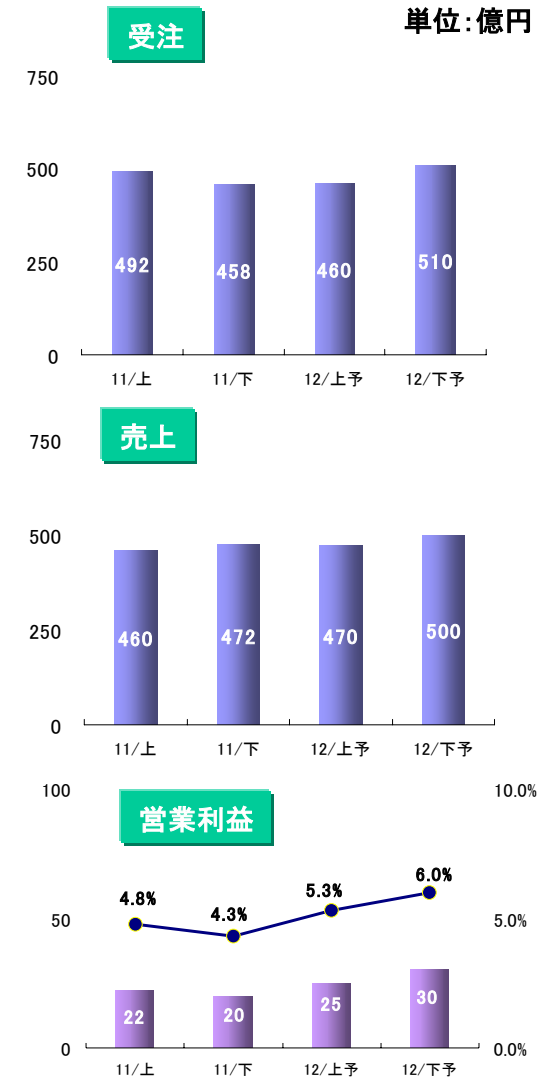
変減速機:

11年度:新興国での市況拡大への対応等により全ての機種が前期より好転、受注、売上ともに増加。

12年度:ハンセン社との協業による受注拡大。唐山工場2期工事完成、ブラジル工場本格稼動、ベトナム工場増産により成長市場を攻略。これら海外拠点をフル活用し事業拡大。



ブラジル新工場



精密機械

プラスチック加工機械:

11年度: 欧州市況の回復により、受注、売上ともに増加。下期はタイ洪水関連で受注上乘せ。

12年度: IT関連に加え、自動車・医療向けにも注力。新規に投入したEVシリーズの拡販。海外ではデマンドが堅調に推移。

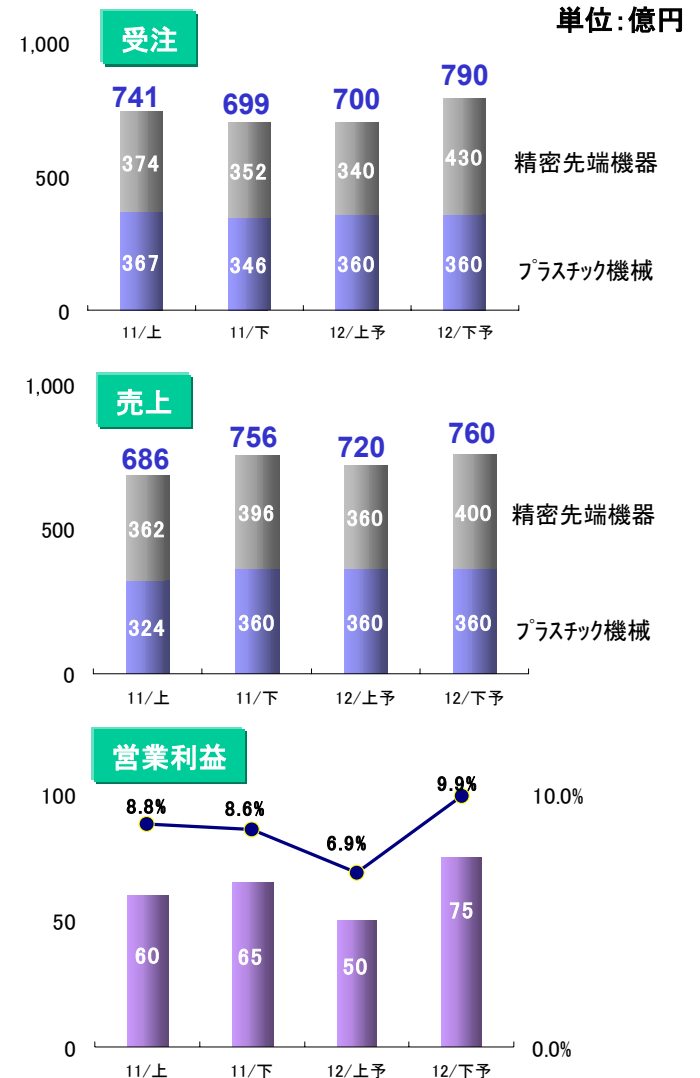
精密先端機器:

11年度: 医療機器、電子関連機種が低調に推移し、部門全体で受注は減少、売上は前期受注を受け好調で増加。

12年度: 医療関連ビジネスにつき注力。



新シリーズ SE-EV



建設機械

ショベル:

11年度: 震災によるサプライチェーン混乱の影響があったが、受注、売上ともに増加。中国はスローダウン。

12年度: 中国国内生産ラインナップ拡充。インドネシア工場生産拡大を前倒しし東南アジア市場で積極的に拡販。北米も販売拠点を活用し拡販。

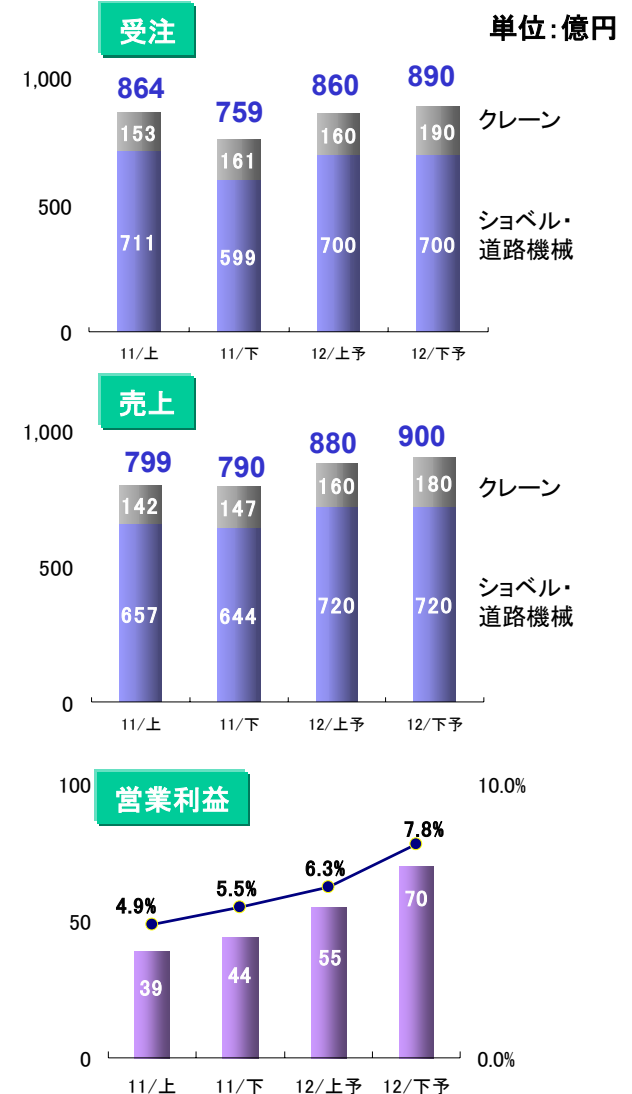
クレーン:

11年度: 北米市場の回復により受注、売上ともに増加。

12年度: 新機種の拡販により売上拡大。



住友建機 インドネシア工場



産業機械

鍛造プレス:

11年度:国内自動車メーカーの海外トランスプラント向け活況。

12年度:大型プレスの海外展開を加速。

運搬機械:

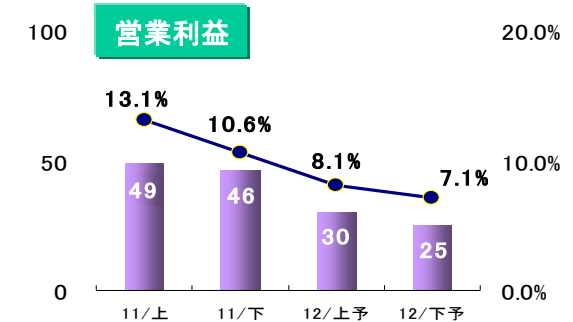
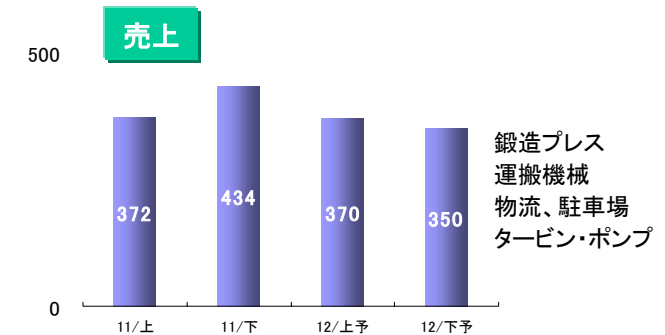
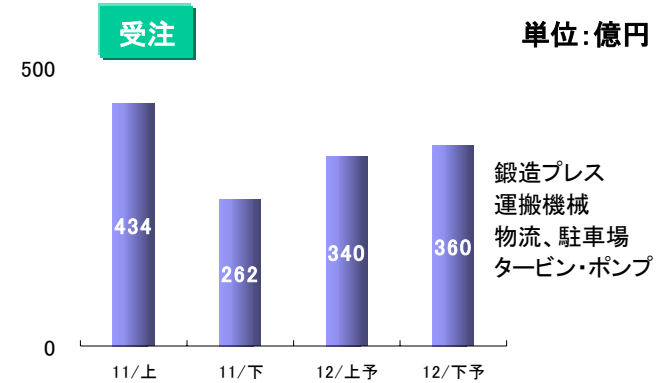
11年度:災害復旧関連対応を優先的に行い堅調に推移し、受注、売上ともに増加。

12年度:製鉄・造船向け市況悪化の一方、海外に注力。

タービン・ポンプ:

11年度:円高等により受注は減少したものの、受注残により売上は増加。

12年度:アジア地域におけるバイオマス発電に注力。



船舶

船舶:

11年度: 市況回復の兆しが見えず受注はゼロ。
売上は7隻と前期比1隻減。

12年度: 受注環境は引き続き厳しいものと見て
先々の建造体制の縮小を図る。

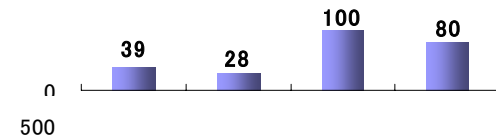


アフラマックスタンカー

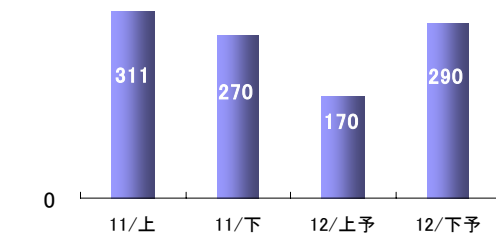
500

単位: 億円

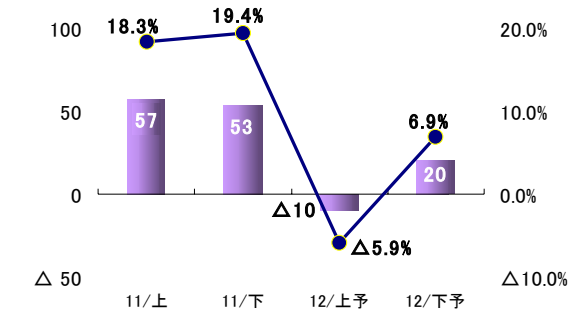
受注



売上



営業利益



環境・プラント

エネルギープラント:

11年度: 海外の産業用発電ボイラが一部で活発だったが全体的には低調に推移したことから受注は前期並み、売上は減少。

12年度: 海外は東南アジア地区を中心に注力。国内は小型ボイラに注力。

水処理プラント:

11年度: 震災復旧対応もあり市況が堅調に推移し、受注、売上ともに増加。

12年度: 引き続きユニット機器中心に事業展開。中国市場開拓を目指す。

圧力容器・攪拌槽他:

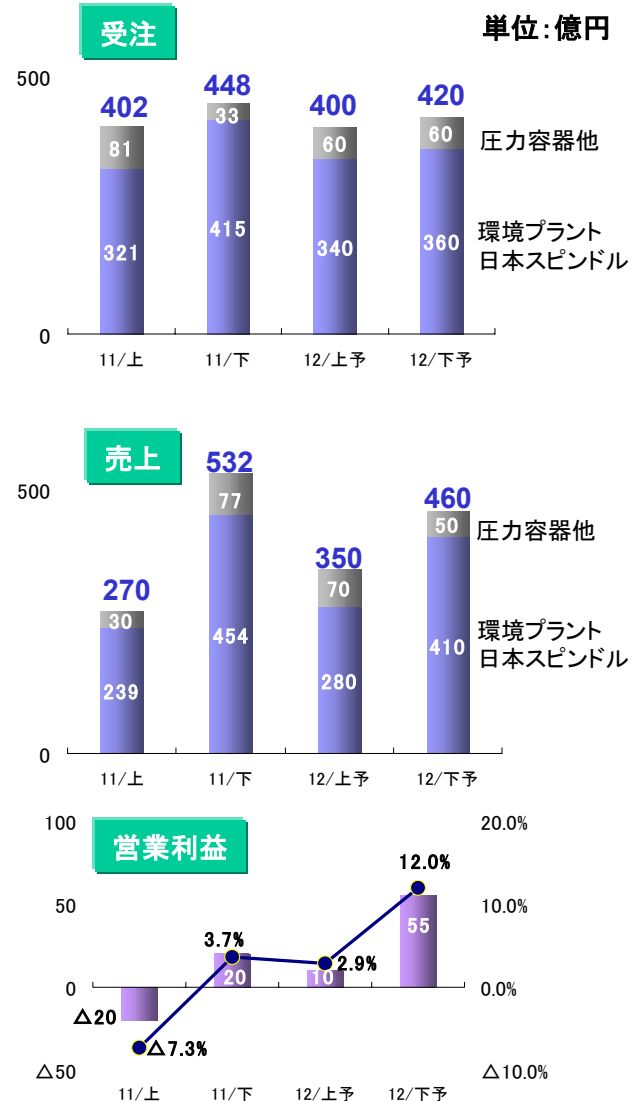
11年度: コークドラム、攪拌で一部市況回復。

12年度: アジア市場の合成化学プラント向け攪拌槽に注力。

日本スピンドル:

11年度: 自動車市場向けタイヤ製造用機械が堅調。

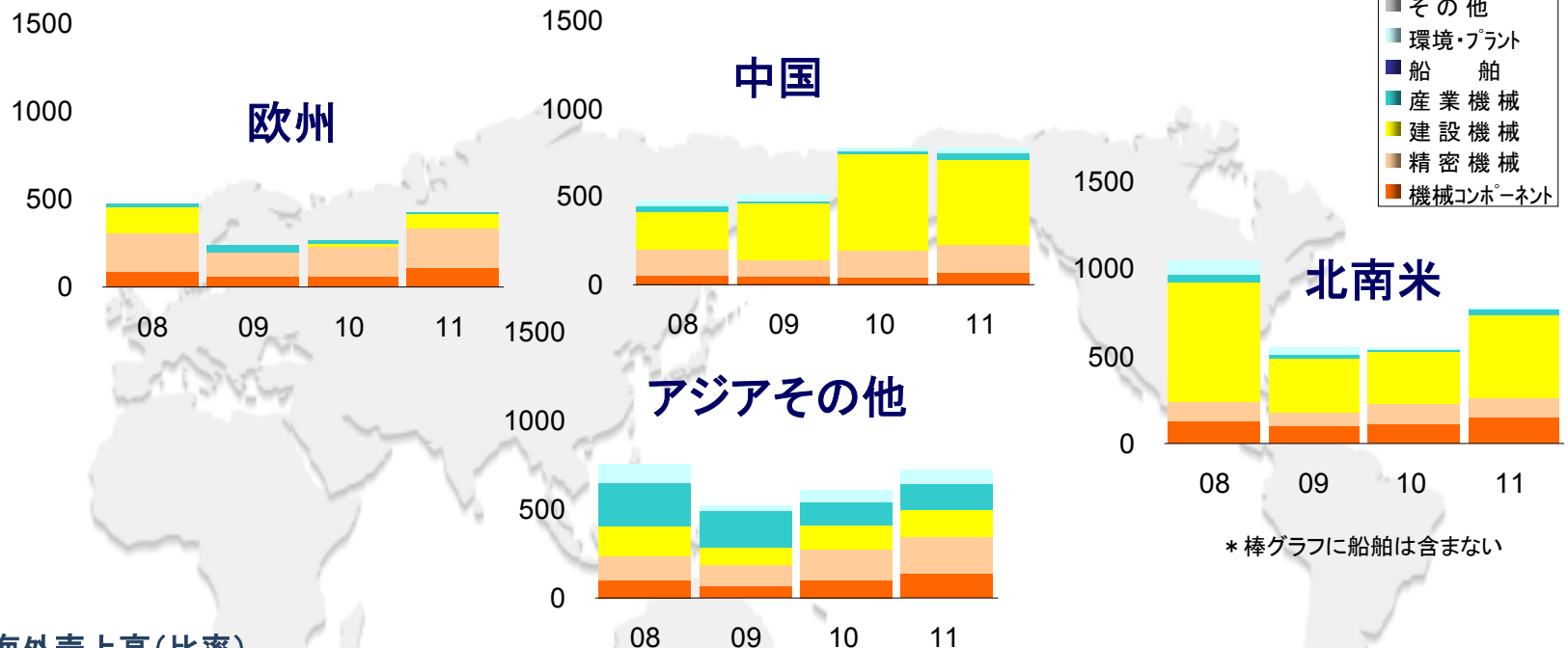
12年度: 引き続き海外自動車市場向けタイヤ製造用機械に注力。



地域別売上(セグメント別)

■ 全地域にわたり機械コンポ、精密、建機の拡大に注力

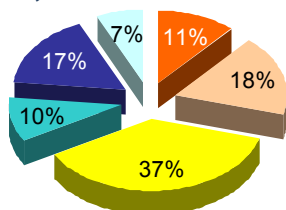
単位: 億円



* 棒グラフに船舶は含まない

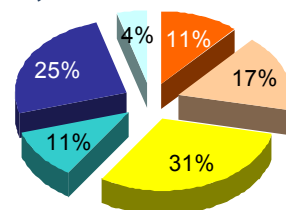
海外売上高(比率)

3,292億円 (51%)



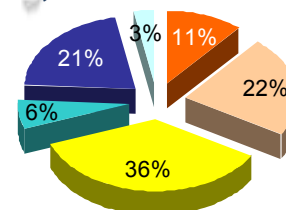
2008

2,434億円 (47%)



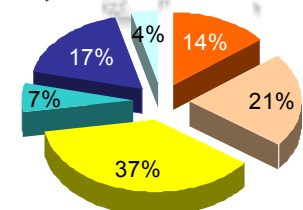
2009

2,774億円 (51%)



2010

3,278億円 (53%)



2011

■ 市場環境

世界経済の停滞および新造船の供給過剰を受け、海運・造船市況は依然低迷状態が継続する。

■ これまでの当社の対応

市場環境に合わせ、建造ペースをスローダウン。

■ 今後の造船事業運営方針

市場の需給関係が大きく崩れている現状では、採算が取れる有効な受注は期待しがたく、市況回復時の速やかな対応に備えながら、当面は可能な限り損失を回避することが事業として得策と判断する。

そのために以下の事業運営方針とする。

- 新造船建造のペースをさらにスローダウンする。
- 12年度末をめどにミニマム人員体制を構築。新造船事業の継続に必要な最小限の人員とする。
- 早期の新造船受注を目指す。

■ 状況

- ・2011/5-2011/11 灰溶融設備の試運転
- ・2011/11 試運転を停止
- ・2011/11-2012/4
 - ・当施設の全ての機器・設備の点検
 - ・予想される全てのトラブルと原因の抽出
 - ・対応策の立案
- ・対応策が確定した時点で引渡時期を明確にする

■ 業績への影響

現時点で合理的に見込まれる工事損失等を引当済み

経営方針

2012年度：
グローバル化とイノベーションの基本方針に
基づき、市場を世界に求めて、
戦いに勝ち抜ける「強い住友重機械」を目指す。

- ✓ 経営規律と財務規律を守り、持続的競争優位を
確立し、健全な事業の発展を目指す。
- ✓ 保有する優れた事業ポートフォリオと人材を活用して、
如何なるときにも堅実に収益を確保する。
- ✓ 時勢の変遷を見極め、攻めと守りの施策を
バランス良く実践する。

将来の業績に関する予想、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。
したがって実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想、見通しとは異なる場合があります。